

川俣正 | Tadashi Kawamata



1953年北海道三笠市生まれ。美術家。フランス、パリ在住。

かつて三笠市内で操業していた住友炭田（1971年閉山）の炭住で生まれ育ち、父親は同炭田で鉱員を務めていた。その後、岩見沢東高校を経て東京藝術大学進学。

28歳で国際展ヴェネツィア・ビエンナーレの日本代表に選ばれ、現在まで世界的に高い評価を獲得し続けている。1999年、東京藝術大学が革新的取り組みとして新設した先端芸術表現科に主任教授として着任。2005年にはアーティストでありながら横浜トリエンナーレの総合ディレクターとして大規模国際展の企画を任されている。現在はパリ国立高等芸術学院（エコール・デ・ポザール）教授。2012年度文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、2014年フランス文化芸術勲章授章。

海外でもっともよく知られている日本人アーティストの1人であり、中学校の美術教科書に作品が載るなど、日本の近現代美術史においても重要な作家として位置付けられている。80年代から一貫してプロジェクト形式にて制作を行い、2000年代以来、国内で一つのムーブメントとなっている「アートプロジェクト」の先駆的存在でもある。加えて、「サイトスペシフィック・インスタレーション」「ワーク・インプログレス」といった手法や概念を早くから実践してきた事でも知られる。

世界各地で展覧会や大規模プロジェクト多数。国内美術館での主な個展に、「デイリーニュース」（水戸美術館 / 2001）、「通路」（東京都現代美術館 / 2008）、「Expand BankART」（BankART / 2012）など。2016年、ポンピドゥー・センターの分館メス（フランス）にて新作インスタレーション「アンダー・ザ・ウォーター」を発表。

